

横浜市感染症発生動向調査事業概要

令和2年(2020年)

令和3年12月

横浜市健康福祉局健康安全部健康安全課
横浜市健康福祉局衛生研究所

はじめに

感染症発生動向調査事業は、感染症の発生状況に関する情報を迅速に収集し、解析・評価を加え、その結果を速やかに関係者や市民に還元することによって、感染症対策に役立てることを目的としています。

横浜市では、1978年に、本市独自の感染症サーベイランス事業を開始しました。その後、1981年に全国レベルで国の事業として開始され、1999年の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下、感染症法)の施行に伴い、感染症発生動向調査が法の下に位置付けられました。以降も感染症法の改正が実施され、感染症の分類や届出対象疾患などが追加・変更されています。

2020年は、前年12月以降に中国 武漢で病原体が特定されていない肺炎患者が確認され、その病原体である新型コロナウイルスの世界的な大流行が発生しました。日本でも1月中旬に感染者が確認され、2月には「新型コロナウイルス感染症」として、指定感染症に指定されました。また同月、航行中に乗客から新型コロナウイルスの感染が確認されたクルーズ船が、横浜港に到着しました。船内では海上で検疫が実施され、多くの感染者が確認されました。国内ではこの頃から帰国者・接触者外来や相談窓口の設置など、医療体制の整備・強化が進められました。

厚生労働省は5月から、新型コロナウイルス感染症の動向を迅速に把握・共有できるよう、新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム(HER-SYS)を導入しました。これにより、発生届の報告が電子化され、発生届以外の関連情報の管理も可能になりました。その頃、新型コロナウイルス感染症専門家会議から「新しい生活様式」が提言され、人との接触や密集を避けるなどの対策が推奨されました。

2020年の感染症発生状況は、新型コロナウイルス感染症の報告が全数把握対象疾患の報告数の約95%を占めました。その他は定点把握対象疾患を含め、報告数が前年から減少した感染症が多数ありました。一方で、性感染症の多くは前年に比べて大きな変化はありませんでした。

この度、2020年(1月～12月)の情報をまとめ、『横浜市感染症発生動向調査事業概要』を作成しました。感染症対策の参考資料として御活用いただければ幸甚に存じます。

最後に、本事業の推進にあたり御協力いただいた横浜市医師会、定点医療機関をはじめ各機関の皆様、また本事業概要の発行に御尽力いただいた感染症発生動向調査委員会の先生方、横浜市健康福祉局職員の方々に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

2021年12月

横浜市感染症発生動向調査委員会

委員長 立川 夏夫

感染症発生動向調査委員会委員名簿

職名	氏名	所属
委員長	立川夏夫	横浜市立市民病院 感染症内科長
副委員長	満田年宏	東京女子医科大学病院 総合感染症・感染制御部 感染制御科 教授
委員	北村勝彦	公立大学法人 横浜市立大学客員教授
委員	相原雄幸	相原アレルギー科・小児科クリニック 院長
委員	荒瀬透	神奈川県警友会けいゆう病院 産婦人科部長
委員	大久保一郎	横浜市衛生研究所長
委員	里見正宏	戸塚区福祉保健センター長

目次

第1章 横浜市感染症発生動向調査事業の概要

1. 横浜市感染症発生動向調査事業	1
(1) 感染症対策の法的根拠	1
(2) 感染症発生動向調査	1
(3) 横浜市感染症発生動向調査システムの概要	1
(4) 横浜市病原体調査	2
(5) 横浜市感染症発生動向調査システムの目的	2
(6) NESID (National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease) について	2
(7) HER-SYS (Health Center Real-time information-sharing System on COVID-19) について	3
2. 感染症発生動向調査における情報の流れ	4
3. 感染症の種類	5
4. 感染症法で規定されている感染症	7
5. 区別定点医療機関数	10

第2章 全数把握対象の報告状況

1. 一類感染症	11
2. 二類感染症	11
3. 三類感染症	12
4. 四類感染症	13
5. 五類感染症(全数把握対象)	13
6. 指定感染症	16
(表) 年別患者報告数(全数把握対象の感染症)	19
(表) 2020年に報告された全数把握対象の感染症	21

第3章 定点把握対象(全数把握対象を除く五類感染症)の報告状況

1. インフルエンザ定点把握対象感染症	27
(1) インフルエンザ	27
2. 小児科定点把握対象感染症	28
(1) RSウイルス感染症	28
(2) 咽頭結膜熱	29
(3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30
(4) 感染性胃腸炎	31
(5) 水痘	32
(6) 手足口病	33
(7) 伝染性紅斑	34
(8) 突発性発しん	35
(9) ヘルパンギーナ	36

(10) 流行性耳下腺炎	37
3. 眼科定点把握対象感染症	38
(1) 急性出血性結膜炎	38
(2) 流行性角結膜炎	39
4. 性感染症定点把握対象感染症	40
(1) 性器クラミジア感染症	40
(2) 性器ヘルペスウイルス感染症	41
(3) 尖圭コンジローマ	41
(4) 淋菌感染症	42
5. 基幹病院定点把握対象感染症	43
(1) 細菌性髄膜炎	43
(2) 無菌性髄膜炎	43
(3) マイコプラズマ肺炎	43
(4) クラミジア肺炎	44
(5) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)	44
(6) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	45
(7) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	45
(8) 薬剤耐性緑膿菌感染症	46
6. インフルエンザ入院サーベイランス	46
7. 定点医療機関からの報告状況	47
(表) 定点把握対象の感染症 患者報告数	48

第4章 病原体情報

1. ウイルス検査	59
・病原体定点調査成績について	60
2. 細菌検査	62

第5章 資料

1. 横浜市感染症発生動向調査事業定点一覧	67
2. 横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱	73
3. 横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱	87
4. 横浜市感染症発生動向調査委員会報告	89
5. 感染症に気をつけよう	113